

奈良女大生活環境
西南女学院短大樋泉 倭子
○戸田 卯子
中川 早苗

【目的】「高齢化社会」という言葉を耳にするようになってから久しいが、衣服市場における高齢者向けの衣服は若者のそれと比べ質量ともに乏しく、またそれらを扱うメーカーの数も少なく、消費者ニーズへの対応が十分になされていないのが現状である。本研究では、来る21世紀の高齢化社会において主役となる高齢者の衣服について、特に心理的な面で満足のいく衣服のデザインを提案したいと考え、現状の衣生活における問題点および既製服に対する不満や要望を明らかにしようとするものである。

【方法】老人会およびボランティアグループの会長を通して調査票の配布を依頼した。対象は40才以上の女性。調査は平成4年9月20日から11月20日に実施した。配布数982通、回収率79.74%。主な調査項目は、衣服の購入や着用などの衣生活に関する項目および既製服に対する不満や要望などである。

【結果】衣服の購入時には、9割以上の者が自分に似合うものや着心地のよいもの、好きなデザインのことを重視すると答えており、機能性や実用性より審美性の面を重視している。衣服着用時には機能性や実用性を重視する一方でTPOやおしゃれにも気を配って、目だち過ぎず、かつ人とは違った自分らしさを出せる服装を心がけていることが伺える。また衣服の大半を既製服に依存しているにもかかわらず、気に入ったデザインや種類が少ないとの不満も多く、若々しさやファッション性があり、体型カバーができ、おしゃれ要素を含んだものを切望しており、既製服に対する要望が高度になっていることがわかった。